

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	李 艶	所属	聖泉大学 人間学部
研究集会等名称	文化と心理学		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください) 会員 7 名 (うち認定心理士 7 名) 非会員 5 名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>助成研究期間に研究小会議は5回、一般公開の研究会は2回を開催した。 第1回目の研究会 二人の研究者による講演を行った テーマ1:「在日中国人留学生の日本文化適応に関する研究」 まず、在日中国人学生にとって必要とされる社会的 (対人) スキルに調査 を通して明らかにした。その上で、 必要性に照らし合わせ、「体験学習」の方法論に則って、適応を促進する訓練のプログラムを開発し、訓練の実践を通して、プログラムの効果を検証した。その結果、プログラムは中国人学生の文化共通のスキルの向上、そしてなによりも日本文化のスキルの向上に役立つと明らかにした研究について報告した。 テーマ2: 現代青年の友人関係に関する研究 現代青年の友人関係の特徴を包括的に理解するために、友人関係における動機づけと友人との葛藤時の対処方略および対面、携帯電話を介したコミュニケーションとの関連についてこれまでに行ってきた研究について報告した。</p> <p>第2回目の研究会 二人の研究者による4つの講演を行った テーマ1: 抑制機能の発達 適切な検索が行われるために、検索時に不必要な情報が抑制されている。今回の発表では、この抑制機能に対する加齢の影響を検討した研究を報告する。 テーマ2: 抑制機能の発達と文化 抑制機能の発達と文化差についての研究を講演した。 テーマ3: 心理臨床における文化・文化差について ① テーマ4: 心理臨床における文化・文化差について ② クライアントにおける問題は個人の文化と周りの集団的文化との対立・相剋という捉え方ができる。このような視点から、クライアントの心情の理解や心理的支援の在り方を考えたり、また人々の人間関係の調整方法を考えていきたい。 本研究会では、心理学の各分野の研究者を交えて、文化と心理についての関連について、研究会にて成果を披露した。 今後、各メンバーがそれぞれの分野から話題提供し、全員で検討・討議した結果をまとめ、日本心理学会大会にてワークショップとして研究発表をする。また、論文として纏める。</p>		